

令和元年度第 1 回北区地域公共交通検討会議 質疑概要

発言者	要旨	回答/見解
新潟市ハイヤータクシー協会	<p>区バス・住民バスにおいて、高齢者層の利用割合が増加した要因を教えてください。</p> <p>これに併せて、中高生の利用割合が減少した要因もお聞きしたい。</p>	<p>(事務局)</p> <p>「シニア半わり」の浸透が、高齢者層において利用が伸びているひとつの要因と思われる。しかし北区・区バス全体としては、利用者数が減少傾向にある。その背景には、市内 65 歳以上の運転免許保有率の上昇、私立高校のスクールバス運行、暖冬に伴う区バス冬季臨時便における中学生利用の減少等があるのではないかと分析している。</p> <p>(はまなす「地域交通」研究会)</p> <p>同会が運営する住民バス（おらってのバス）でも、朝晩と日中時間帯における乗車数が逆転傾向にある。また、「シニア半わり」利用者数が季節に関係なく安定しており、高齢者の利用が顕著になってきたと思う。区バスと同様、スクールバスの運行や子どもの数の減少により、朝晩の利用者は減少傾向である。</p> <p>(都市交通政策課)</p> <p>北区の利用者数は減少傾向にあるものの、本市全体における区バス・住民バス利用者数は増加傾向を維持している。本市移動実態調査から、高齢者の移動が以前に比して、多くなってきたことも要因に挙げられるのではないかと。</p>
同上	<p>基本方針案「公共交通を利用しにくい地域への対策を検討します」について、今後の対応策をどう考えているのか。</p>	<p>(都市交通政策課)</p> <p>必要な対応策は当会議にて検討していく。公共交通が空白あるいは不便な地域への対応の一例として、従来の定期路線に依らない運行対応、運行形態であるデマンド型交通社会実験等を実施している。また、区バス・住民バスにおいても、いかに地域のニーズに則した形で利便性を上げていくのかが、今後の課題。</p>

<p>同上</p>	<p>岡方・長浦地区のデマンド型交通社会実験では、乗り合いを重視した施策に移行してきている。現行の補助スキームでは、まだデマンド型交通が位置づけられていないが、今後新しい事業に取り組むなかで、バスだけでなく、タクシー車両の活用も発想として入っているか。</p>	<p>(都市交通政策課)</p> <p>タクシーは、公共交通の一翼を担う重要な運行手段である。需要等を踏まえ、必ずしもバス車両に依る必要がない地域については、タクシー車両を活用できるのではないかと考えの下、北区においては、岡方・長浦地区でタクシー車両を活用したデマンド型交通社会実験を行っている。また、他区の事例として、西蒲区・南区・秋葉区ではバス車両が従来運行していた路線において、タクシー事業者のジャンボタクシーやコンピューター車両を活用した取り組みを行っている。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----------	--	---